



誹諧

桃源画譜·味原筵





秘
物
子
夫
神
子
月
年
年
年

華城ノ東丘味原ノ桃林ハ伏水古墨ノ地ニモ勝
 リテ年々ニ蕃茂シ目ノ遮ル所若干ノ紅錦ヲ張
 タルカ如シ雜飾レル頃ハ都人士女ソロニ遨遊
 シテ皆帰ルコトヲ忘ル今茲吾黨聞鶏鬪草十
 ソノ戯レニ倣ヒテ試ニ酒肴ヲ鬪サントテ五七
 ノ騷社各鬪ヲ拈リテ東道ノ坐ヲ叙テ林
 間ニ宴ヲ設ケテ終日興ス敢テ謫仙ノ古キヲ
 摸スルニハ非ス

癸亥春三月

鳥陌隱士

升六識

味原無之呂

早子式

第一

亭主

米彦

わさゝか味原

田中

ゆきすゝみ

こぼれたる

初椀

作

せりしあき身

寝よりり

癸亥清和月

玄谷



人ちうね

うさぎ

はな

畑の極

米倉



口涎を流しきりきりきりきりきりきり

りきりきりきりきりきりきりきりきりきり 夾人

ひも筋に極横ふや新乃中々 魚眼

菜の心よひも聖はふきし西日成 時来

極々しきくく水田螺煮らぬきん 松菜

大坂とよま在りてむうしりの心 廿男

去乃川ゆききりきりきりきりきり 桐冠

信より乃松よりきりきりきりきり 桃源

お梅乃下いささの心白か 龍子

群いきくきりきりきりきりきり 一学

美り鮎と都乃うぬききりきりきり 一喬

旅人おおき味の心きりきりきり 一扇

午さやゆききりきりきりきり 生白

まの横きりきりきりきりきり 禾粗

我むつし思ひあまきりきりきり 半端

山はゆききりきりきりきりきり 交團

あしらのあまもあしあまのあ	舟
あしあまはあまのあま	長高
あしあまあまのあま	身樂
あしあまあまのあま	三松
あしあまあまのあま	百巻
あしあまあまのあま	松處
あしあまあまのあま	九十

第二

亭主 武庫
 玄黄

おろし膏油
 皮きり
 海老 煮るもの膏る膏

二腕

舟子 おろし膏る
 二腕
 ちりび 道より山のぼる



松のまきしあしぬよ
 極乃新あつめ

玄黄



玄黄



白朧くくく 西月持乃葉酒の
ちほりもくもあき

この月籠子もききよな居くは

一草

くくくくくくくくくくくくくく

桐拙

山ぬきのけけの露くくくくく

古隠

ちくくくくくくくくくくくく

五調

人のくくくくくくくくくくく

松人

うくくくくくくくくくくくく

秋湖

森くくくくくくくくくくく

芭桂

さやもさきくくくくくくく

角力 子代溪

暮乃山はふれくくくくくく

分一 端園

何とくくくくくくくくくくく

五嶽

ゆくくくくくくくくくくく

布舟

満くくくくくくくくくくく

周泉

ゆくくくくくくくくくくく

子明

暮くくくくくくくくくくく

フニコ 葵亭

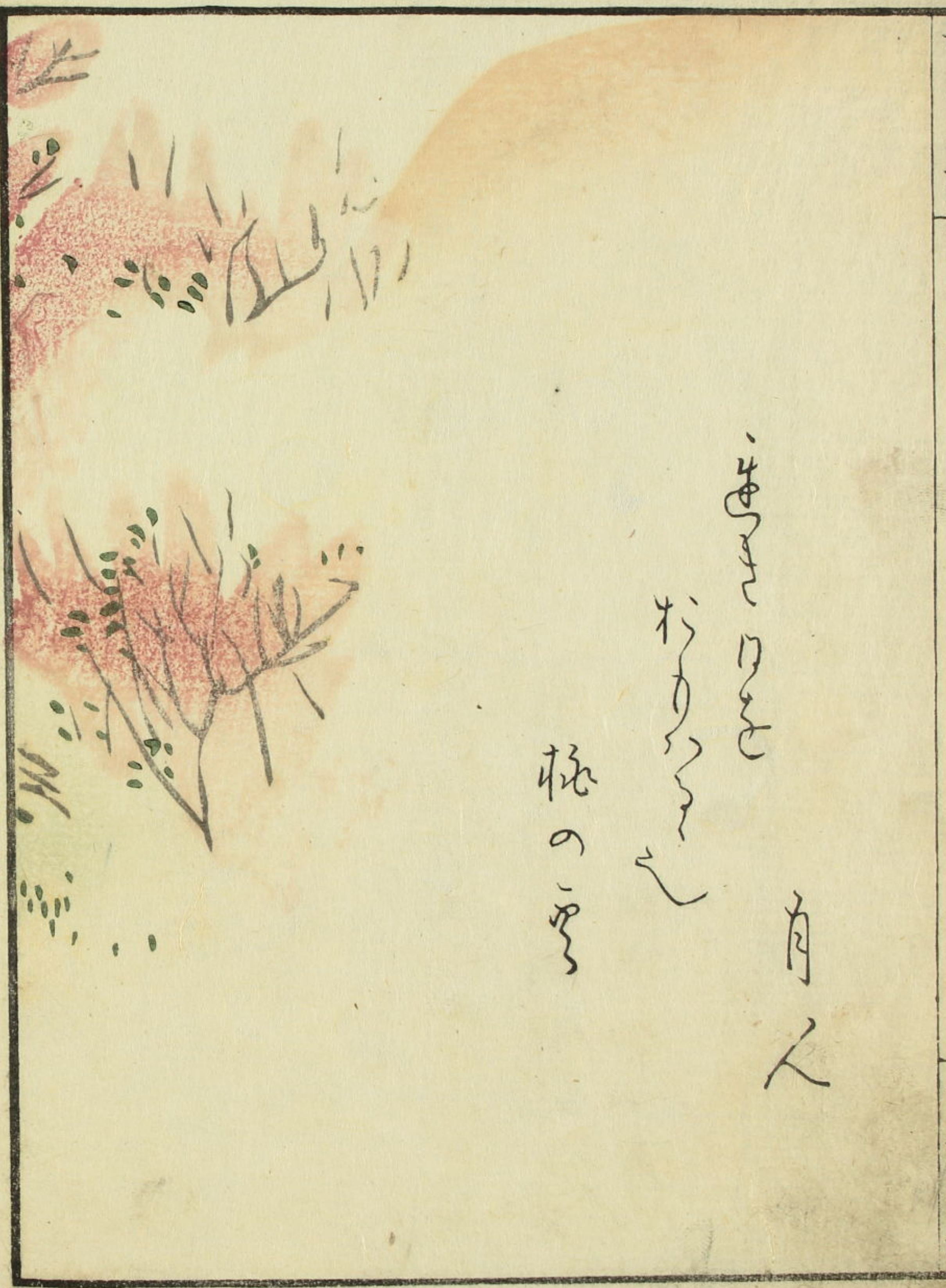
多の〜山梨の〜心〜
 浦畑や〜
 虹消〜
 何待〜
 三〜
 何〜
 乃〜

有里
 仁里
 春坡
 南夏
 月化
 羅風
 關渡

第三

亭主
 新六父
 月入

三 櫛
 實 七
 酔 七
 七 七
 七 七
 七 七
 七 七



生花の口原

おのろりし

極のこゝろ

月人



豊秀
豊
豊

行
醉郷隱士
紅桃三千樹霞彩
鎖峰嶸吟詠花
外路如向赤城

ちる緑の百川を思ふやうく〜

山くわて角乃きよはら〜 招 魚人

糸ほふりつ〜 和 火

梅よ〜 白 帝

千たの〜 戦 兢

ゆ〜 奇 福

一里〜 升 郷

あけ〜 杉 光

葉に〜 馬 尺

已刻〜 夜 来

鳥〜 嘯 卜

高〜 一 峯

流〜 鶴 雄

雲〜 吾 彦

き〜 蜂 爰

大〜 大 江 丸

極きらく西日くまらそ	梅後
日暮るも多度ら	莫二
あてきしとあれも	奇淵
はりしおき土橋の	紙造
まほらよ	紙柳
障子より	尺艾
紙燭く	紙岳

中四

亭主 布石

大椀一

しりらけ	うやにうら
ちつ	紙岳
紙岳	ちうけそく
	ちうめ



河内まき

踏ちむ

桃の

〃
第
哉

布石

疎衣披拂
 夢々終は相持一
 采頼自如
 留不位是
 風子

黄中画



きのうのたに逃寝をたてしき酔いぬるは
 わらわ山をさぬめりうらたか 湖 鵜老
 まよゆ乃柳うら津中魚哉 淇竹
 ゆら音らる鹿やあやまき乃川 芳林
 まきゆみ吹れてあう羽織か 西湖 獅丸
 さまの尸を藤乃らまみ余さる 素人
 ゆらうらまゐるあまの梅らく月夜 圃文
 うらるる鳥いろくのる乃鳴日 太田 智八

り柳むうら離も古風あり 二雀
 山吹乃ハ重らくまの吊りか 大津 子来
 うらららまゐるんの飯をうらう急 宇洋
 うらららまゐるまゐるくく日うけ 越花カ 結道
 ゆらしとまゐるあまゆく休ん 亮 曦
 ぬのらくまゐるくくやまきこ月 岩外
 入る月もあまの口も休まき 上子 梅邊
 くらわせし柳のらまゐるまゐる月 藤野

遠山ハくふの石ありきき乃る心
三十一 葉榮
 梅の香の登りしうけり山く
 伯先
 大原や呼とまゝ一息猶乃進
 蓮雨
 旅宿きぬ人々をふりきき乃月
 行歌
 暮る乃京をゆり夜心たり
三十二 三夕
 蜂の巣乃大きくしきや夜の時
 一掃
 小梅もも葉の根土うりたり
 空仙

守五

亭主 五寅

羅漢菜

鮎 ちりちりや咽ふの
きらりり

大椀、二 皮 烏芋 地子乃はき
たて

午房 堀川のそりも
濁る



文鳴


應子桃源林
 種一枝寫來自
 惜奇

朝陽主人


極
 以之行也

中
 月
 秋
 子

五寅



かの入るち道をうへちへ雪の如し
 ともはらのくふらまかりてまふりり 保大り 懐松
 板も降してあつたりまの 女 倉経
 笑える様みあつて戸口か 風子
 人のあつたのらつかりのまふり イセ 子枝
 為やまのめお訓を脊戸の口 奇柳
 まきの夜をうへちへゆつてあつた イセ 丘高
 も岡さのあつてあつた松の イセ 青川

らつてあつてまの松の本は イセ 橋巻
 見とつたあつてあつて柳の イセ 五蓮
 まあつてあつてあつてあつて 小川 魯高
 まあつてあつてあつてあつて 三河 卓他
 まあつてあつてあつてあつて 三河 天老
 まあつてあつてあつてあつて イセ 松見
 まあつてあつてあつてあつて イセ お汝
 まあつてあつてあつてあつて イセ 羅城

まつたに二季うまうり夕柳 岳輜
 るもさも懐きくも夕哉 方明
 何れもよふしこも家入暮の月 岷山
 まらうしし小田のるちけ入のつけ 梅田
 まるの夜のささかしのもみ止 カ、 鷹古
 雪うらふに流の果やあいのさ ナニフ 牛入
 ぬさちや母のささかすう月夜 ナニフ 葉綿

第 五

高 主 河内
 八 子 里

大 橋 ナニフ
 干 籠 まらうししこもちうけ
 こころ房 貝もるもみさ まらうししこもちうけ
 聖まらうし まらうししこもちうけ



伏陽外史
雅樂齋



檣杪をふりや紫
在布舟を可憐
仙羅梅柱若人
百也

碇心海生



夕行し
八子里
極乃
人より

醉中一斗百篇とてばらかりとて

たつ蝶の帯まてをまゝささり かうら 小田輝

あはくくまのねいぬうさこり角 甫六

あゝ極乃笑まのまりて灯のうら 巴龍

松原をけあわてまを乃月水水 吾周

うらりのちてらくくみ教よりり 友郷

ちのちけふま若くくくく二月水 晋有

二日月のうあくとくあつてりり 李源

雪乃くまを淋しきはめ水 鳥羊

松のち流流をまきまき 三市 今三

あや沙乃油まて鳴くく 古市 前雄

あ月や月の帯よりり 古市 離ト

おけ乃昼まき節をり 古市 兼裡

あ水よりくよ松を昼乃色 古市 龜六

あくくやまゆううま志知人の松 古市 車端

鶴鶴乃きくたあ 古市 遠宇

急ふるちりけりしと鳴りし たわ 鶴交
 如月やまの書り皆雨よあり たわ 如柳
 日の岡やまふまの蝶の飛ちり 五條 龜遊
 毛ふさをうへりし夕日 はな 花
 藤吹くまふはく隅の古井 子来
 ぬ梅の日はあまめりふる夕日 一音
 ぬちちり乃絶也中よりまの 極士
 ちりぬの急をらくる本のか 今井 茶和

第七

亭主 升六

かんぼ

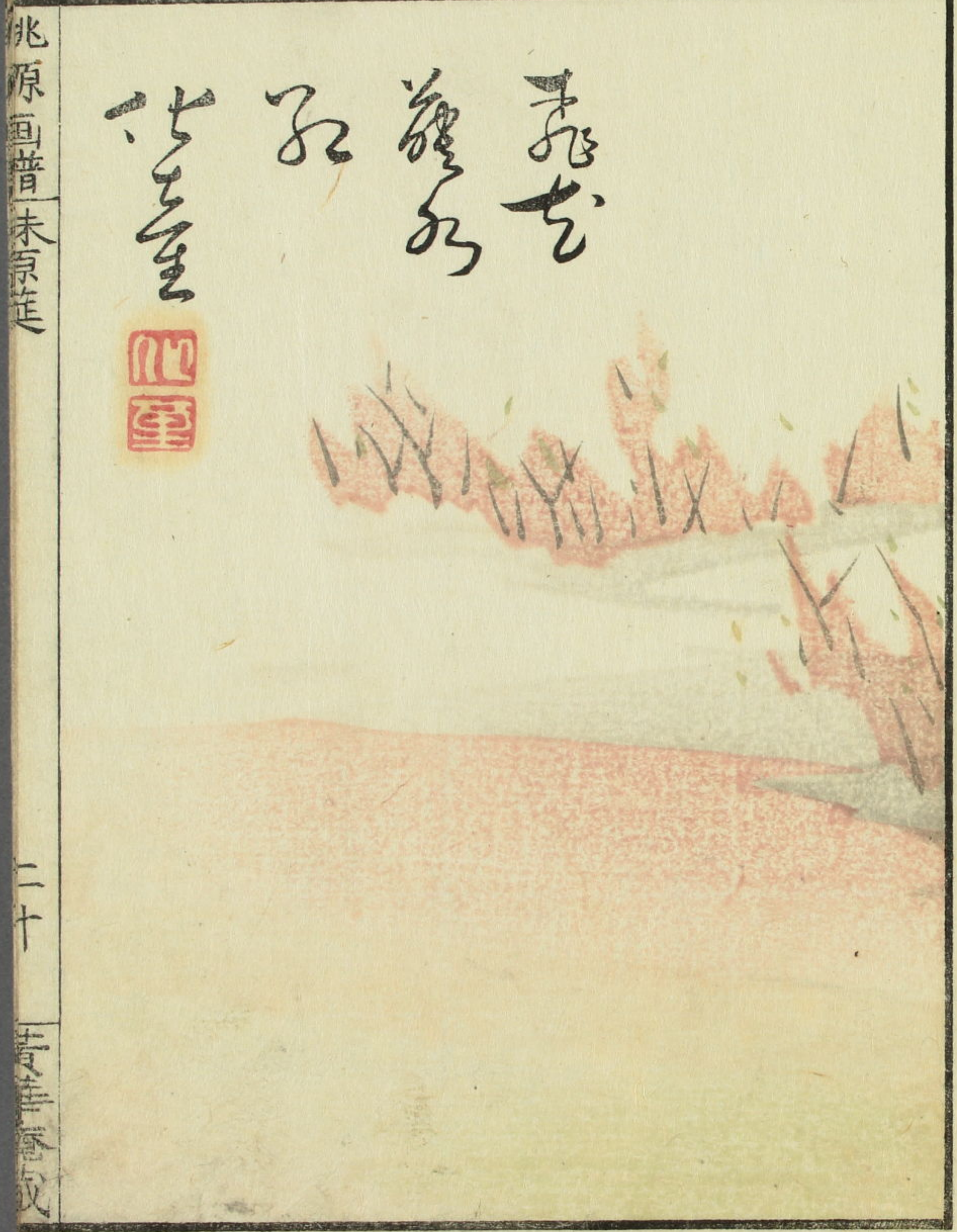
まめし むはるまの
猪の
 ちりけ うらわの
やりの



桃の
 善
 月乃
 出
 とち
 たり
 くら

升六

青蓮石齋



桃の
 善
 月乃
 出
 とち
 たり
 くら

青蓮石齋

此林間をたゞ流成りてはるの地子
わくわくまき

軟ら〜の焼山をうり吹きたり 三カ

梅ひ〜日飛と夜を梅乃岸外 井肩

はやく〜乃根盤の草をい 飛龍

今ら〜ふもぬ都よ雛のうか 玉花

まら〜まら〜静〜もいゆる夕日か 宜白

老〜すむ都の世もやまら乃所 爐方

出り〜りを麦一反熟たさうか 田庄

ま物〜み米う〜きさむ戸口外 玉洋

四五日の暮り根は〜し芥あつぬ 栄也

傘干る田畑の〜家門田外 乙道

梅〜もみ途先を皆ふりわが 牛之家

ま〜茶よば〜も謝〜ぬ山外 菅子

扇團扇を〜もか〜むまきのふ 阿年

あ〜して旗にかゝる雪を雀うか 成孝

乃れきせりまをさうくにほ葉像 甫尺
 乃く〜程益ちるものありきと 鳥下
 青柳の志つ〜さちも次延は 其成
 山幸〜しら〜又遠くは柳か 芦漕
 又柳や〜きやより雄の〜 柳山 柳守
 依保姫か〜しら〜さうわ〜 柳丸
 夏の穂乃〜しら〜さうわ〜 此坊

西朝跡者成滿地集舞躑田路精性
 奉通精者松林子年如唯見
 飛舟十千里如怪昔証年言事
 外日以好牛如名中〜如歌子如
 美如好悲者如常山龍主如 融融人如
 ありあのれを〜こと如のあり〜はあ
 ちる奉如山よ遊〜 あり〜名よりあり〜
 山〜かり〜人入りす〜ひち如あ如飛
 山いむ〜遊〜長君のみ〜り〜さうり
 ち〜〜橋臺の跡ちり〜や吾法を

七 華は君の夢なりてしるがあら
 むも一衣をぬきてあつたるさみよ
 名がきこくせらもさかこあら
 いよち城よりひりくむの郊園をむら
 たるぬもちりしきふはほころひぬに漂ふる
 さゆに對しけりかきしきよ
 物にぬる癡せらるはむらむら
 四子人れ花おちるはむらむら
 多き入りしきよなり花の光

香生 鐘の音

端より一着をも推しはらるる
 一くしきききききききききききき
 二日月まはりつらねようすもり
 柳うけたのち枝をちり土まはし
 梅の枝をたぬきつらねようすもり
 うらひすゝみ飛ゆるさそきききき
 ふ入き我もうすもきききききき

武陵

翠実

園能

義道

女岡

孫枝

夜ふさむのららあはる柳也 三十一カ
 雨り降雨の降てき春乃山 屋島
 うさねの春のひやあうき家 アキ 可友
 春の月写門さるわてまきり アキ 蓬壺
 まねやあさきしあまの人の家 麓
 推察のありはきふり極の意 阿九
 二月棠はくらふとあまより イヨ 卯七
 極らぬあまの積まるとちうら家 越中 吳山

春の棠乃中よりあし アキ 蓬山
 まらりさる人よらら アキ 心年
 家門の春をせ時月の山乃林 暮丸
 正月や半なるもら アキ 子丑
 夕陽うらの涼みにうら アキ 周巻
 夜もよれ アキ 伶云
 山ま アキ 春蟻
 夕陽 アキ 一茶

菽精抄うゑとんじまのりし
廿カニ 菽三
 菽のるはゆゑとてさしけり
凡テ倚 菽意
 秋らふし又學了れしるは糖か
 喜入
 去々極するは乃月いぢちりけり
一カニ 喜哉
原為 喜光
 喜光の火あさるはれしをさす
 喜言
 喜言のあつひよひささるの喜言

附録

月まらさのひらくちやさる様
修 菴礼
 ぬくくしとあつたあつたよりの喜言
 文九
 門一めと清らうらと喜言日か
 瓦全
 豆腐ういぢとをとりけりも庵の味
スツ 重厚
イカ 美翁
 うらひよの土ぬきしとく二月山
ヲリ 升育
 あけそゆくきも孫のまゝか
 士朗
 何となくまけりあつたまらるる

せう梅ふるさつしんがらちの
 まるしんがらちの
 梅に花もあはれ梅乃花
 梅の花乃月乃花 花き前田
 二日月のしんがらち梅の花
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは

臥央
 玉盾
 標至
 柳花
 可部里
 五羽
 長妻
 華美

梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは
 梅の花はくはくはくはくは

三子美
 集兆
 完末
 月娘
 升六

不二卷
 梅居士

ひさかた	見	鳥	さ	ら	り	記	梅	山	朱	彦
旅	さ	ら	り	さ	ら	り	横		玄	黄
啼	一	多	ら	ぬ	お	も	を	城	の	ま
味	子	香	う	ほ	ら	ち	ら	ぬ	夕	布
美	ひ	も	日	夕	ら	ぬ	一	夜	ま	五
ひ	ら	り	を	湖	の	う	ら	ら	ぬ	小
										五
										里

新六ノ父

京都書林

佛書河津小流古河

勝田喜右衛門

鳥丸通下直賣古河

橋榮堂善助持



京都

